

英和同窓通信

No.86

同窓通信 発行

甲府市愛宕町112 山梨英和中高同窓会 電話(055)253-7991 編集発行人 小野 興子

五月十九日(土)

定期総会

次年度の定期総会は湯村の常磐ホテルで開かれます。第一部総会、第二部礼拝。第三部親睦会には、宝塚で大活躍された峰丘奈知さん(S55卒)の歌とトークショーを予定しております。



日 時 / 五月十九日(土)

受付 九時三十分

開会 十時

場 所 / 常磐ホテル

会 費 / 五、〇〇〇円

今回の当番学年は、S34・S55・H13の皆様です。

お問い合わせ先 /

同窓会事務局

甲府市愛宕町一二二

〇五五 二五三 七九二

クリスマス会

去る十二月九日にグリーンバンクチャペルに於いて、クリスマス拝礼が行われ、百数十名の同窓生が集いました。チャペルの入り口には真紅のポインセチアが飾られ、クリスマスを祝う華やかな雰囲気

に満ちていました。恒例のミニバザーでは英和の名物のメイプルケーキやクリスマス用品などが並べられ大変な賑わいでした。中央教会の白鳥牧師の説教に続き、横手先生によるパイプオルガンの演奏、そして最後に皆でクリスマスキャロルを歌い、礼拝の幕を閉じました。その後短い時間ではありましたが、お茶を飲みながらなごやかな会話を楽しむ機会も持つことができ、大変有意義なクリスマスの集いとなりました。



私の魂は主をあがめ

白鳥 彰



教会の暦は待降節から始まります。一年を御子の降誕を待ち望むことから始めているのです。ブルームハルトが信仰者の生活のあり様を「待ちつつ、急ぎつつ」と表現しています。実にキリスト教信仰は「待ち望む」とに特色があります。

そしてこのことは私たちの希望は人生の後にではなく前にあることを示しています。若い者ばかりでなく、老いた人であってもそうです。過去を振り返り、あれもこれも年をとってできなくなってしまうと嘆いたり、昔話をする相手がいなくなり寂しいと感じる過去に希望があるのではなく、将来に希望があるのです。自分を愛してくれたい人々とも近い将来会える。カトリック教会では召天のこと帰天と記しますが、天のふるさとのもとに帰り会えることができる。人生の先に希望を抱けるのです。

ドイツのある修道会では隠退してホームに戻ってからの日々を「祭りの前夜」と呼ぶのです。人生を生きて来て、あとは祭りが待っている。それ故にわくわくしているときなのです。

メリー・クリスマスという思い出す映画のシーンがあります。「ジョニーは戦場へ行った」のメリー・クリスマスです。戦場で五感の全く失われた、意識さえあるのかないのかわからないジョニーは、今まで物体として扱われてきました。受持の看護婦がかわつてのクリスマスの日です。看護婦は外出の服装に整えて病室にきました。そしてジョニーの胸を開けて指文字を書き始めます。まずMの字を何回も消しては書き、書いては消すうちに、ジョニーがMとわかり、頭を動かしてうなずくと、次の文字を書くことをくりかえし、とうとう「メリー」と。彼は「ああ看護婦の名前ですか、メリーさんありがとう」と意識の中で叫んでいました。看護婦は、また指文字を書きつづけクリスマスと記しました。それをわかった彼が「クリスマスを教えてくれてありがとう、うれしいメリー・クリスマス」

草創期の人々の歩み克明に



本を読まれた方から感想が寄せられました。

昨年十二月、中高同窓会は設立百十周年を記念して「山梨英和 礎のときを生きて」を刊行した。

山梨英和中等学校の創立者である新海榮太郎、二代校長新海祐六、初代校長ウイントミユート、日本人初の校長雨宮敬作、また、英和の教育精神を持って生きた同窓生九人の合わせて十三人を取りあげ、それぞれの生涯を紹介して、時代の空気、社会背景までをいきいきと伝えている。

執筆・編集したのは「山梨英和の歴史をたどる会」の桑島慶子(代表)、古屋知子、深沢美恵子、小池牧子の四人の方々。三年余の歳月をかけて資料を収集調査し、また関係する方々を訪問して、消えかかっている足跡を掘り起こす作業を重ねて来た。

記念誌はA4判、百十一ページ、千五百円(送料同窓会負担)。

小笠原先生一〇〇歳に

小笠原愛先生(丁13卒)は、今年一月九日で満百才を迎えられました。

退職すると同時に、山梨ライトハウスの朗読研修を受け、二十年余りに渡って、目の不自由な方のために録音の奉仕を続けられました。デイサービスに通うようになってからも、職員から頼まれてクリスマスのお話や新聞記事等、お仲間のお年寄りに読んで差し上げ皆様に大変喜ばれました。

七十三才の時には、妹の達子様(S5卒)と姪の治子様(S32卒)ご家族と一緒に、アメリカやカナダを旅行し、グリーンバンク先生にお会いできたことが何より嬉しかったそうです。

二十年程前、甲府保健所で、認知症介護家族の会が定期的にあり家族が研修を受けている間、隣の部屋で、認知症の方々のお世話をするボランティアもされました。

山梨キリスト者「老いを考える会」の顧問として高齢者の家庭生活の支援のあり方を学んで居られたのも、その頃です。

又、九十三才になるまで、日本キリスト教婦人矯風会山梨支部長として活躍されました。



甲府教会にて治子様と

した。

今も治子様のお押し車椅子で毎週教会の礼拝へお元気に出席されています。主に従いつつ、いつも誰かのために何かしてあげたいという気持を持ち続けて居られます。(I)

先生百歳おめでとうございます

S41卒 小澤 諄

私共、昭和四十一年度卒業の生徒は、先生にとつて最後の担任のクラスでした。

最初のホームルームでのお話しは、軀人も横道にそれる者がない様に裏とおっしゃられました。

登校時、廊下で、先生とすれ違い、おはようございますと挨拶をしますと、横の花瓶を見て、「あら、ダメね」と私の目にも首を垂れているお花が見て取れ、
軀ント汚い輩と。

終礼時のホームルームで、朝の一瞬の事を指摘し、お花を片付けなかった人がいますと皆の前で言われたのです。

私は、帰りがけ、その腐った花を捨てた時の匂いまで思い出します。

確かに汚いと認めた私がいいて、それを片付けなかった私がいいて、なんと気が利かないというか、どうしてその時にしなかったかと、恥ずかしいと同時に、自分で自分が腹立たしかったのを覚えていません。

今だに気の利かない自分に氣

付くことばかりです。

還暦を迎えますのに、年令を重ねるだけで何の成長もなく、軀日々、何をして来たのですか、と百歳の先生に叱られそうです。今、再び、いろいろな事を教えていただきたいと、遅れ馳せながら思っております。

「諸先輩の中で、百歳を迎えられた方は、いらっしやるのでしようか、どうぞ、ご長寿の記録を更新して下さい」

キリスト教功労者顕彰を受賞



「山梨英和 礎の時を生きて」を刊行に導いてくださいました桑島慶子姉は、

昨年十月、代三七回キリスト教功労者顕彰を日本キリスト教文化協会より受けられました。同窓会への連日のご奉仕、役員として学校運営に日夜心を尽くしてくださる様子を目の当たりにさせていただくこの頃です。キリスト教の普及と文化の向上に貢献した方々に与えられるこの顕彰に「最も相応しい方」として心から感謝し、喜ばしく思います。これからも健康に留意されます。益々お力添えくださり、桑島姉のご意志が後輩に受け継がれていくことを祈ってまいります。

小野 興子

今、学校では

高校教頭 山口 富夫

現在英和中学・高校には二つの体育館があります。

そのうち第一体育館は、建築後四四年が経過し、老朽化が目立つようになりました。さらに、甲府が東海大地震にそなえた地震防災対策強化地域に指定され、校舎等の耐震強度の強化が求められています。

私たちは、昨年グリーンバンクチャペル(旧講堂)の耐震補強改修の機会に恵まれました。以前に比べ格段に強化された耐震性と快適な環境の中で、毎週の合同礼拝、各種の集会、カウンセリング、課外活動等が営まれていきます。様々な困難を押しでも改修工事に踏み切って本当に良かったと実感しています。

一九八七年に第二体育館ができるまで、「新体」と呼ばれていた第一体育館は、一九六二年(昭和三七)に着工され、その翌年三月に完成しました。当時院長(校長)であった内藤正隆先生が生徒の体力向上を願って、精魂を傾けられました。当時の生徒たちは先生が病の身をおして何度も工事現場を視察する姿を見かけたそうです。

第一体育館についても耐震

強化の必要が指摘され、どのようにつきかが検討されてきました。高校校舎の入り口に、立ちほだかるかのように建つ第一体育館は、確かに景観上は好ましくないと考えられます。全部解体して新築し直す案も考えました。しかし、法律上様々な建築規制がかかった地区であり、十分な高さを確保できないこと、狭いキャンパスの中で他に適当な建築場所が見あたらないなど、克服困難な課題がでてきました。そこで、内藤先生の思いが込められ、チャペルと並んで英和の発展を支えてきた歴史的な建物を大切に使い続けていくことこそ、私達の責務であると考え、現在の建物を耐震補強することにしました。

幸い、予算の範囲内で充分な耐震強度を確保できる工法が可能になり、理事会でも承認されました。二階のアリーナ及び屋根部分は耐震補強が主ですが、一階は現在の施設を一旦すべて取り払い、生徒が活動をしやすいように再配置改修をいたします。工期は九月末から二月末までの三ヶ月間を予定しています。改修が完成したあかつきには、生徒会活動の中心施設として生徒達で賑うことでしょう。同窓会の皆様には、これまで英和中高の施設拡充には多大なご支援をいただきました。今後とも応援して頂きますようお願い致します。

宝塚では、花組に所属され、『ベルサイユのばら』ロザリー役や、数々のエトワール(歌姫)を経験され、現在でも宝塚ファンの間では、ベストエトワールとして名高い方です。

Q、宝塚音楽学校を目指したきっかけは。

小さい頃から習っていたピアノ、バレエが生かせると思いついた。母に連れられて観に行つた宝塚の甲府公演で、はじめて宝塚の存在を知りました。その公演できれいな声で歌っていたスターの方々に憧れました。

Q、宝塚時代で思い出に残っていることは。

ニューヨーク公演です！宝塚歌劇団にとっても名誉ある公演であり、その公演で宝塚を代表するエトワールとして参加できたこと。六千人収容のラジオシティ・ミュージックホールでソロを務め、絶賛を浴びたことは最高の思い出です。

OG NOW

元タカラジェンヌ

峰丘 奈知 さん (S55卒)

Q、英和での学びは峰丘さんにとどのような影響を与えましたか。英和での生活全てがきっかけで、宝塚への道が



開けたと思っています。今思えば、先生方のお言葉の使い方、雰囲気などからも、目に見えない感性や価値観が磨かれていたように思います。子育て中の今も、その価値観は基本となり、ありがたく思っています。

Q、ライフワークは。

四才の男の子と夫の三人で暮らしています。歌を中心にした仕事も少しずつ再開しています。そのほか、幼稚園の父母会会長をしながら、木更津の主婦の方々と価値観や感性を磨くためのサークルを計画しています。歌うこともその一つです。私の出来ることに挑戦中です。

峰丘奈知さんプロフィール

昭和55年 宝塚歌劇団入団
・『イヴにスローダンスを』パウホールにて初主演
平成4年 宝塚歌劇団退団
宝塚歌劇団より昭和60年度努力賞を受賞
退団後は、『回転木馬』(帝国劇場)、『西太后』(松竹座)など数多くの舞台やディナーショー、ラジオなどに出演

東京支部便り

*総会・親睦会(五月下旬)・最初に礼拝を守り、年次総会で年間の活動・会計報告、新年度計画等が検討・決定されます。親睦会ではアトラクション(楽器演奏等)を楽しみ、理事長、院長、校長先生や懐かしい恩師の先生方、久しぶりの先輩・後輩・級友との話に時を忘れず。帰りには昔の仲間と会場(ホテル)内外の喫茶店でおしゃべりを楽しむ光景があちこちに。
*クリスマス会(十二月第一土曜日)・教会をお借りし(今年は阿佐ヶ谷教会)ご家族や友人も誘い合わせてクリスマス礼拝を守ります。共に讃美、説教を聴き、キリストに降誕の恵みと喜びを感じる時です。茶話会ではミニバザーも行い、手芸品や有志が焼いたメープルケーキ(大好評!)を販売します。
*同窓会通信発行(年一回、十一月)・クリスマス会の案内、総会等の報告、諸連絡、同窓生の近況等を掲載しています。
*学年委員会(年一回 四月、十一月)・諸連絡や協議、通信の発送作業をします。又(今年は八十二歳以上)の先輩方へ花の日とクリスマスにカードを書いてお送りしています。
*コーラス・ハレルヤの会(月一回)・古屋千枝子先生の指導で合唱を楽しんでいます。
その他、バザーのための小物作りやケーキ作り(適宜、有志で)・作業をしながらの年代を超えたおしゃべり、情報交換で賑やか、和やか、皆が親しくなります。
これからに向けて
若い方の登録や参加が少ないので是非若い方々に加わっていただきたいと望んでいます。お子様連れでも参加できる形を工夫していきたいと考えています。

友愛部

秋のつどい

六〇歳以上の同窓生に声をかけし、十月二日「秋のつどい」を開催しました。一部礼拝では、宍戸俊介牧師より説教「まことの富とは」を頂き、また深沢久子さんの賛美を聴き、豊かな礼拝を守る事が出来ました。二部では、島崎紀代子先生（JLM理事長・耳鼻科医師）から、「出会い」と題してお話を伺い、先生のお人柄と共にその生き様に深い感動を覚えました。心より、感謝申し上げます。



事業部

バザーを終えて

中村 京子

時の変化による問題や駐車場の確保等で、ここ何年か試行錯誤しながら変更を重ねたバザー



を、昨年は同窓会室の改修もあり、お休みしました。その間にバザー自体を見直し、今年は十一月二日、場所を多目的ホールから同窓会室に移してクラス委員会当日に再開しました。

一年休んだので心配でしたが、たくさんの方の献品をいただき有難うございました。

以前と比較すると狭い空間でしたが、移動も少なく、ゆっくり買物をして頂けたでしょうか。「やこめ」を作って販売して下さった方々、手作りの品を送って下さった方々、残った品をまとめて買って下さった方々、折に触れ同窓生の英和と同窓会を想う心に頭が下がります。今後ともお気付きの点、ご提案等が御座いましたら是非お声をお聞かせ下さい。

寄付者名簿

二〇〇六・四月～二〇〇七・三月

- 故北原としこ先生
 - 幽清会（故小柳津政子様）
 - 萩原 典子先生
 - 寺田 喜長様
 - 桑島 慶子様
 - 大久保美智子様
 - 永野 貞子様
 - 名取 久子様
 - 有志
 - 有志
 - 新海 泰様
 - 新海 親様
 - 芦沢 信子様
 - 小川 博子様
 - 樋川美奈子様
 - 中込 寿美様
 - 五ノ井邦子様
 - 奥水希代子様
- (S 19)
(S 33)
(S 40)
(S 41)
(S 51)
(S 53)
(S 2)
(S 29)
(S 32)
(S 37)
(S 39)
(S 49)

故小柳津政子様（S14卒）よりご寄付

昨年十二月、小柳津政子様の関係者（お茶の師匠であった小柳津様の「幽清会」代表二名の方がご来校、先生のご遺志と同窓会へ百万円のご寄付を下さいました。

若い日より亡くなるその時まで、山梨英和を愛し、同窓会に思いを寄せ、その活動に積極的に協力して下さった小柳津様を偲びつつ、その心を大切に、有意義に生かして、使わせていただきたいと思います。

事務局から

昨年八月、東京在住のK様（S30卒）からお便りをいただいた。届いた同窓通信の計報の中にお名前がなかったの…とS様（T10卒）の亡くなったことを知らせて下さったものだった。お二人の出会いが数年前、同窓会名簿で近所の特養老人ホームに先輩のお名前を見つけたことから始まった。早速S様を訪れたK様、「第一印象はとても可愛らしく思わず抱いてやりたくなるような方でした。」小豆餡が好みと知り、折にふれ和菓子を持って訪れお話し、帰る時はいつも「ありがとう、おこまいもできません。」と笑顔で別れたこと、十七年七月百二才の天命を全うされ、神様の許に召されたことが、美しい文字で綴られていた。そして最後の「お目にかかって六年間、いつも変わらずやさしいお心で周りの方々や介護の皆様から可愛がっていただいております。」と結ばれていた。

事務局には、時々こんなやさしいお便りが届く。同窓会名簿の中でふと見つけたお名前、そこから生まれるあたたかいふれあい、どこかで誰かがそんな素敵な出会いを経験できますようにと祈りながら今日の一日が始まった。

一三四名の新入会員

去る一月二十五日、二〇〇七年度の同窓会新入会員受入式を行った。入会記念品として今年度は同窓会が刊行した「山梨英和礎のときを生きて」が贈呈され、新入会員を代表して早川江里子さんが「入会記念品として頂いた『礎のときを生きて』に刻まれた英和の歴史をしっかりと胸に留めてこれから歩んでいきたい」と挨拶した。

おくやみ (平成18年6月～平成19年1月)	
ご召天者お名前	
滝口志づ古	(S 4卒)
長井 光子	(S 4卒)
雨宮 筆子	(S 7卒)
楠原 洋子	(S 19卒)
中込いつ江	(S 7卒)
宮崎とよ子	(S 3卒)
田中 秀子	(S 27卒)
神宮司あつ子	(S 26卒)
渡辺 松子	(S 10卒)
城戸 八重	(S 10卒)
大沢 良路	(S 9卒)
石川家寿代	(S 2卒)
桜井 節子	(S 23卒)
鶴田 景子	(H 12卒)
山口 華子	(S 28卒)
伊藤 茂子	(S 19卒)
芦澤 信子	(S 2卒)
長坂 君恵	(S 17卒)
永友ゑい子	(S 2卒)

編集後記

86号いかがでしたでしょうか。御意見等、お寄せ下さい。